

今昔の掛け橋

No. 25

島根大学埋蔵文化財調査研究センター刊行 〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 TEL/FAX: 0852-32-6496
 ホームページ: <http://www.shimane-u.ac.jp/info/maibunn/index.htm>

埋文センターイベントのご紹介 【その1】

第7回特別展示 (学園祭特別企画+埋文センター10周年企画)

島大キャンパスを掘る ~発掘10年のあゆみ~

日 時：10月11日(土)～13日(月) AM9:00～PM4:00

場 所：島根大学埋蔵文化財調査研究センター

(生物資源科学部3号館西側、ボイラー室の高い煙突が目印)

島根大学埋蔵文化財調査研究センターは、1994年4月に発足し、今年で10年目になります。それ以来、島根大学松江キャンパス内の校舎新築に伴い、多くの発掘調査を手がけてきました。

これまでの調査によって、縄文時代の木製品や土器、石器をはじめ、貴重な資料が、破壊からまぬがれ、貴重な研究資料・博物館学教材として活用されています。また、約8000年前から現在までの、大学周辺の環境がどのように移り変わってきたかを知る、重要な成果もあげており、学界から注目されています。

本展示では、埋文センター10年の歩みを、遺物や写真とともに振り返り、新たな10年に向けて、ささやかな一里塚とすべく企画致しました。なお、次の10年は、医学部(出雲キャンパス)での調査も予想されますので、これから研究成果にもご期待下さい。

今年もやります！ 島大名物 “縄文スープ” の試食

中国山地(邑智町)でとれた本物のイノシシを煮込んだ、あっさり味のスープです。縄文時代の食料に関する研究から、当時の味を復元しました。

10/12～10/13のみ 200食限定です

埋文センターイベントのご紹介 【その2】

三瓶自然館・県立博物館とのタイアップ展示

「宍道湖をめぐる自然史と古代史」

主催：島根県立三瓶自然館 共催：島根大学埋蔵文化財調査研究センター／島根県立博物館

日 時：平成15年10月15日（水）～11月16日（日）

午前9時～午後5時

会 場：島根県立博物館

〒690-0887 松江市殿町1番地 TEL(0852)22-5750(代表)

休館日：毎週月曜日（11/3「文化の日」は開館）

交 通：JR松江駅・電鉄松江しんじ湖温泉駅からレイクライン、
市営バス、一畑バスとともに「県庁前」下車、徒歩1分。

宍道湖とその周辺は、およそ1万年前以降、大きく地形を変化させながら、現在の姿になっています。縄文時代以来、この地の人々は、こうした環境の変化に適応しながら、暮らしを営んできました。

今回の県立博物館での特別展示では、自然学者と共に、学問分野にとらわれない総合展示を行います。

内容の一部を以下にご紹介しましょう。

1. 宍道湖を探る



縄文の水辺に溜まった泥とアカホヤ火山灰
(約6300年前、現島根大学第2体育館)

宍道湖は、全国7位の広さを持ち、海水の1/5～1/10程度の塩分を含む汽水湖です。この湖の環境は、世界的な気候変化と河川の堆積作用によって、過去数千年間に大きく変化してきました。

宍道湖の湖底には、過去約1万年にわたって、静かに泥が堆積し続けています。その中には微生物の化石や火山灰層が含まれ、過去の環境を知る手がかりになります。過去の環境変化の解明は、将来に起こりうる環境変化を予測することにもつながります。

2. 縄文の海が広がった

人類紀ともいわれる新生代第四紀（200万年前～現在）は、世界的に気温が低下した氷期と、温暖な間氷期が繰り返された時代です。10数万年周期の氷期と間氷期の繰り返しは、海岸地形に大きな影響を与えてきました。

1万年前に氷期が終わると急速に温暖化し、100年間に1mもの速度で海面が上昇しました。この海面上昇によって氷期の谷は水没し、6千年前頃の宍道湖一帯は、大社湾から松江付近まで続く細長い湾になりました。

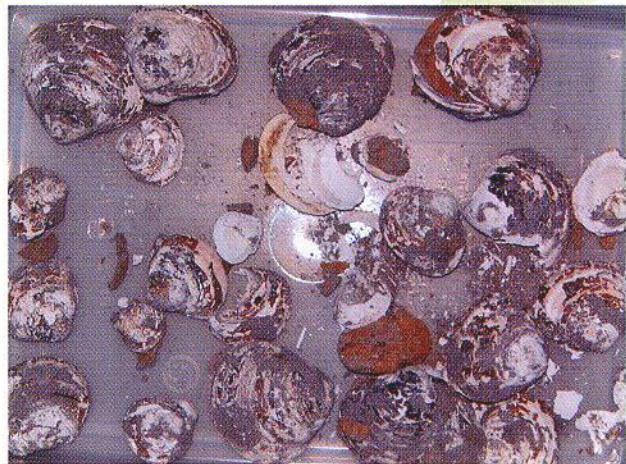


写真2 宍道湖(湾)の湖底から出土したシジミ
(約5000年前、現島根大学正門付近出土)

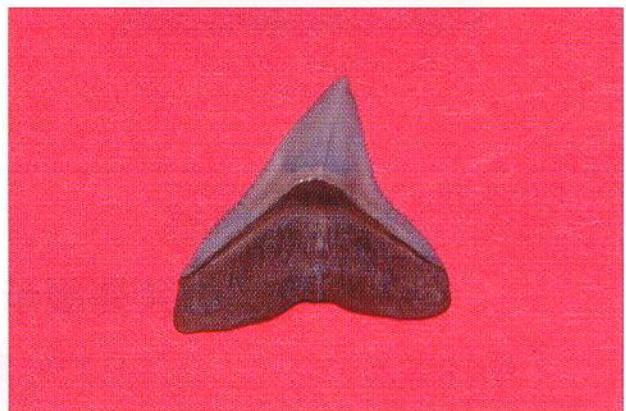


写真3 宍道湖(湾)の湖底から出土したメジロザメの歯
(現島根大学総合理工学部3号館出土)

3. 海から潟湖へ

5～6千年前頃に海面上昇が終わると、斐伊川と神戸川が運んだ土砂が堆積し、出雲平野の拡大が始まりました。やがて、三角州が島根半島まで達し、宍道湖の原型が出来上がりました。

宍道湖のように、湾が堆積物によって塞き止められてできた湖は「潟湖(せきこ)」と呼ばれています。東隣の中海のほか、霞ヶ浦(茨城県)やサロマ湖(北海道)などが宍道湖と同時期に形成された潟湖です。

4. 三瓶火山と出雲平野

島根大学医学部(出雲キャンパス)がある出雲平野は、古代出雲の表舞台ともいわれ、数多くの遺跡が知られています。平野には縄文時代後期頃に人が暮らしあはじめ、弥生時代に急速に集落が広がりました。

神戸川の流域には、縄文時代に2回の火山活動を行った三瓶火山があります。三瓶火山の噴出物は神戸川を流れ下り、出雲平野西部の原型を一気に形づくりました。その時に形成された微高地に集落遺跡が立地しています。出雲神話で国引きの綱を止める杭に見立てられた三瓶山は、古代出雲の表舞台をしつらえた立役者といえます。

5. 松江平野のおいたち

島根大学構内遺跡(松江キャンパス地区)や朝酌川流域にある遺跡の発掘調査では、縄文時代の海の広がりと、そこに土砂を運び込んで平野を広げていった朝酌川の様子を知ることができました。6千年前頃は、持田のあたりまで海が広がっていましたが、縄文時代晚期頃には、川津小学校付近まで海岸線が後退しています。島根大学構内遺跡では、この時代の海岸砂州が確認されています。弥生時代にはさらに平野が広くなっていましたが、中世までは広い範囲が水域や湿原の状態でした。

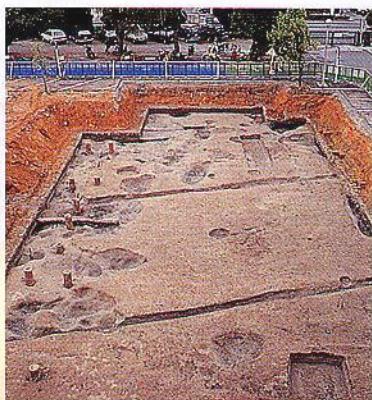


写真4 約3000年前頃の砂州
(現島根大学総合理工学部3号館)



写真5 砂州の断面写真
(潮の流れで運ばれた泥と砂が交互に堆積して砂州が伸びていく)

しまねミュージアムめぐり

今回の共催展示でお世話になった

「島根県立三瓶自然館 サヒメル」のご紹介

場 所：三瓶山「北の原」方面です。

〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8 TEL(0854)86-0500

お車で…

松江自動車道三刀屋木次I.C.より60分、JR出雲市駅より70分

開館時間：午前9時30分～午後5時

(ただし、4月～10月の土曜日は午前9時30分～午後6時)

休 館 日：毎週月曜日

(月曜日が休・祝日の場合は次の平日に休館。夏休み期間中の月曜日は開館)

年末年始 (12月29日～1月3日)

3月、6月、9月、12月の各第1月曜日から金曜日まで

約3500年前の縄文埋没林の実物展示は、必見!! 息を飲むほどの迫力です!!

ホームページ：<http://www2.pref.shimane.jp/sanbe/index.html>

島大埋文センターのHPからもリンクをはっています。